令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団
施設名	札幌コンサートホールKitara
内定額	14,240　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	Kitaraのクリスマス	令和7年12月20日	札幌コンサートホールKitara 大ホール
公-02	Kitaraのニューイヤー ～オペラアリア名曲選～	令和8年1月10日	札幌コンサートホールKitara 大ホール
公-03	Kitaraのバースデイ	令和7年7月5日	札幌コンサートホールKitara 大ホール
人-01	第28回リスト音楽院セミナー	令和8年2月17日 ～2月24日	札幌コンサートホールKitara 小ホール、大リハーサル室、 小リハーサル室A・B
人-02	〈Kitara＆札幌音楽家協議会連携プロジェクト〉 札幌の音彩（ねいろ）Ⅲ～春をつげる北のアーティストたち～	令和8年3月21日	札幌コンサートホールKitara 小ホール
普-01	Kitaraあ・ら・かると	令和7年5月3日 ～5月5日	札幌コンサートホールKitara 全館
普-02	〈北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara連携事業〉若い芽の音楽会	令和7年12月6日	札幌コンサートホールKitara 小ホール
普-03	Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ	令和7年10月25日 令和7年11月22日	札幌コンサートホールKitara 小ホール
普-04	〈ハンガリーの俊英たちⅥ〉サバディ・イルディコ　フルートリサイタル	令和8年2月14日	札幌コンサートホールKitara 小ホール
普-05	学校オルガンアウトリーチ	令和7年10月23日 令和7年11月27日	札幌市立米里小学校 札幌市立前田中央小学校
普-06	パイプオルガン特別講義＆オルガン体験レッスン	令和7年5月22日 令和7年6月17日	札幌コンサートホールKitara 大ホール、大リハーサル室
普-07	0歳からのコンサート 絵本 de クラシック	令和7年6月7日	札幌コンサートホールKitara 大ホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	31	27	26
	公演事業	9	9	8
	（内、本助成対象事業本数）	2	0	3
	人材養成事業	3	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	2	2	2
	普及啓発事業	19	15	15
	（内、本助成対象事業本数）	10	10	7
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください	0	0	0

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	474	475	468
	ホール名：大ホール　座席数：2020	252	250	253
	ホール名：小ホール　座席数：459	222	225	215
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	50,617	51,015	42,887
	公演事業	8,844	11,244	10,159
	人材養成事業	1,792	1,947	1,563
	普及啓発事業	39,981	37,824	31,165
	共生社会事業			
	その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	246,978	269,422	275,772
	その他　内容：記入してください	0	0	0
	計	297,595	320,437	318,659
開館日数		334	333	333
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		301	291	298
施設の利用日数		252	250	253
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		83.7%	85.9%	84.9%

備考	「施設の利用可能日数」及び「施設の利用日数」は、大ホールの利用状況を反映しています。

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	9	8,844		9					
	共催・提携公演（※2）	0	0	0							
	貸館公演	319	319	246,978		319					
	計	328	328	255,822							
令和6年度	主催公演（※1）	9	11	11,244		9					
	共催・提携公演（※2）	0	0	0							
	貸館公演	307	307	269,422		307					
	計	316	318	280,666							
令和7年度	主催公演（※1）	8	9	10,159		8					
	共催・提携公演（※2）	0	0	0							
	貸館公演	332	332	275,772		332					
	計	340	341	285,931							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	Kitaraのクリスマス	目標値	1,100	56.6%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とてもよかった」「よかった」）と回答した人が96%以上	とてもよかった80%、よかった13% →93%
		実績値	1,107	57.0%	初来場者率	アンケート回答者のうち8%以上	初来館者率13%
					市外からの来場者率	アンケート回答者のうち20%以上	市外からの来館者率23%
					U25料金での購入率	16%以上	販売数976枚のうちU25は96枚 →U25購入率9.8%
					事業費支出に対する入場料等収入の割合	56%以上	事業費支出：8,423,255円 入場料等収入：4,620,000円 支出に対する収入の割合：54.8%
					会員のチケット購入枚数	KitaraClub会員のチケット購入枚数が500枚以上／Kitaraアプリ会員のチケット購入枚数が400枚以上	KitaraClub会員チケット購入枚数328枚 ／Kitaraアプリ会員チケット購入枚数353枚
公-02	Kitaraのニューイヤー ～オペラアリア名曲選～	目標値	1,550	77.2%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とてもよかった」「よかった」）と回答した人が96%以上	とてもよかった79%、よかった13% →92%
		実績値	1,503	74.9%	初来場者率	アンケート回答者のうち8%以上	初来館者2%
					市外からの来場者率	アンケート回答者のうち18%以上	市外からの来館者率14%
					U25料金での購入率	12%以上	販売数1,416枚のうちU25は69枚 →U25購入率4.9%
					事業費支出に対する入場料等収入の割合	60%以上	事業費支出：9,998,753円 入場料等収入：6,749,500円 支出に対する収入の割合：67.5%
					会員のチケット購入枚数	KitaraClub会員のチケット購入枚数が500枚以上／Kitaraアプリ会員のチケット購入枚数が350枚以上	KitaraClub会員チケット購入枚数638枚 ／Kitaraアプリ会員チケット購入枚数324枚
公-03	Kitaraのバースデイ	目標値	2,400	86.0%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階（「とてもよかった」「よかった」）と回答した人が93%以上	AM公演：とてもよかった67.1%、よかった28.0% PM公演：とてもよかった85.3%、よかった11.2% →2公演平均95.8%
		実績値	2,619	93.8%	初来場者率	アンケート回答者のうち32%以上	初来館者 AM公演：13.4%／PM公演：23.0% →2公演平均18.2%
					市外からの来場者率	アンケート回答者のうち12%以上	市外からの来館者率 AM公演：12%／PM公演：8% →2公演平均10%
					事業費支出に対する入場料等収入の割合	70%以上	事業費支出：1,737,541円 入場料等収入：1,198,500円 支出に対する収入の割合：69.0%
					会員のチケット購入枚数	KitaraClub会員のチケット購入枚数が210枚以上／Kitaraアプリ会員のチケット購入枚数が500枚以上	KitaraClub会員チケット購入枚数220枚 ／Kitaraアプリ会員チケット購入枚数 1,260枚

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人札幌市芸術文化財団
施設名	札幌コンサートホール Kitara
内定額	14,240　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等)」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	Kitara のクリスマス	入場者数は目標を達成しており、初来館者率および市外からの来場者率が高いことから、本公演が札幌への旅行の目的の一つとして一定の需要を喚起したものと考えられる。 一方で、U25 購入率は目標値 16%に対し 9.8%にとどまり、若年層に対する広報については、効果的なアプローチが十分に図られなかった。また、Kitara Club 会員によるチケット購入枚数も目標値を下回っており、公演に対するリピーターの減少が懸念される。
公-02	Kitara のニューイヤー～オペラアリア名曲選～	入場者数は目標値にわずかに及ばず、有料入場者率が 67.3%と低いことから、公演の 2～3 日前から悪天候が続き、航空機の欠航や鉄道の遅延・運休が発生したことにより、チケットを購入したにもかかわらず来場を断念した方が多く、これが入場者数に影響したものと考えられる。また、この影響により、市外からの来館者率および初来館者率についても目標値には達しなかった。 一方で、事業費支出に対する入場料等収入の割合は、目標値 60%に対し 67.5%となり、支出の抑制とチケット売上の増加により、収益率の向上を図ることができた。
公-03	Kitara のバースデイ	入場者数は目標を上回り、入場率は 93.8%と、多くの来場者を迎えることができた。初来館者率は目標値を下回ったものの、観客満足度の高さから、前年度の同公演を鑑賞した来場者の再来場が多かったものと考えられる。 さらに、Kitara アプリ会員によるチケット購入枚数は目標値の約 2.5 倍となり、他公演と比較しても顕著に多かった。この結果から、ファミリー層においてデジタル媒体との親和性が高い傾向が見られ、SNS や公式ウェブサイト、アプリ等を活用した情報発信が有効であることが示唆される。今後は、各媒体の活用状況を分析し、ターゲット層に応じた広報戦略を最適化することで、さらなる集客効果の向上が期待される。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①入場者数 ②観客満足度（公演平均値） ③専門家等からの評価	①対象事業（3 事業 4 公演）のうち、目標入場者数を超える公演が 3 公演以上 ②来場者アンケートの結果「とてもよかった／よかった」の回答が94%以上（R5・R6 年度実績 2 か年平均 93.5%） ③講評シート、意見交換会において高評価を得る。音楽評論家の批評の記事や専門誌への高評価の掲載。／成果と今後の課題を把握する。	①【未達成】 3 事業 4 公演のうち 2 事業が目標入場者数を達成 ②【達成】 3 事業 4 公演の平均 94.2% ③【講評シート】 「これからの逸材の演奏がこのコンサートで聴けたことは貴重である。」（Kitara のクリスマス） 「イタリアオペラの明朗さや抒情味のある旋律が堪能できた。／周囲の観衆の声も皆、素晴らしい演奏を聴けたことの喜びに満ちていた。」（Kirara のニューイヤー） 【WEB】Liveen Times 掲載 青山 寿樹氏による公演批評「原田慶太楼の指揮は、歌手の呼吸に寄り添いながらも、オーケストラの色彩感と推進力を存分に引き出した。札幌交響楽団の演奏も、オペラガラならではの多彩な表情を見事に描き分け、華やかさと品格を兼ね備えたサウンドで舞台を支える。指揮者とオーケストラの信頼関係が感じられる一体感が、コンサート全体の完成度を高めていた。」（Kitara のニューイヤー）

人材養成事業	①セミナー参加者（受講生、聴講生） ②入場者数 ③受講者・聴講者・観客満足度（公演平均値） ④専門家等からの評価	①目標セミナー参加者数を超えたか。 ②対象事業（5 公演）のうち、目標入場者数を超える公演が 3 公演以上 ③受講者・聴講者・来場者アンケートの結果「また参加したい」、「とても良かった/良かった」の回答率が 91%以上（R5・R6 年度実績 2 か年平均 90.7%） ④講評シート、意見交換会において高評価を得る。音楽評論家の批評の記事や専門誌への高評価の掲載。／成果と今後の課題を把握する。	①【達成】 〈受講生〉目標：33 名 実績：40 名 〈聴講生〉目標：35 名 実績：39 名 ②【達成】 5 公演全て目標入場者数を達成 ③【達成】92.6% ④【講評シート】 「バッハの無伴奏組曲の定番から自作自演の作品まで、非常に充実したプログラム内容で、ペレーニの魅力が十分堪能できた。」（ペレーニリサイタル） 「音に厚みのあるリスト作品をあれだけダイナミックに奏でる演奏はめったに聴くことができず、貴重な鑑賞体験だった。」（ファルカシュリサイタル） 「リスト音楽院セミナーは、札幌の音楽界にとって PMF 同様大きな歴史的財産であり、Kitara が世界的につながっている柱のひとつである。この特別コンサートは受講生だけでなく、一般の音楽ファンにもこのセミナーの重要性を認識できる貴重な機会であり、今後の継続を心より切望する。」（セミナー全体）
普及啓発事業	①入場者数 ②観客満足度（公演平均値） ③専門家等からの評価	①対象事業（7 事業 14 公演）のうち、目標入場者数を超える公演が 10 公演以上 ②来場者アンケートの結果「とてもよかった／よかった」の回答が 92%以上（R5・R6 年度実績 2 か年平均 91.3%） ③講評シート、意見交換会において高評価を得る。音楽評論家の批評の記事や専門誌への高評価の掲載。／成果と今後の課題を把握する。	①【未達成】8 公演 ②【達成】92.3% ③【講評シート】 「どの奏者も大変演奏技術が高く、音楽性にも優れていた。」（若い芽の音楽会） 「特に前半のライネッケ作品では、ロマン派音楽の抒情性がサバディの演奏から溢れ出て、さらに後半のバルトーク作品は、彼女の高度な技巧とともにハンガリー人としての DNA も感じられ、圧巻の演奏であった。リスト音楽院セミナーで審査員特別賞を受賞した荒川浩毅も、繊細なピアニズムによりサバディとの見事なアンサンブルを聴かせていた。」（ハンガリーの俊英）

共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	①入場者数は 2 事業（Kitara のニューイヤー、Kitara のバースデイ～もっとじっくり公演～）が目標未達となったものの、各事業とも目標に対してそれぞれ 97%、89%と、概ね目標に近い水準で着地した。Kitara のニューイヤーはチケット売れ枚数が好調であったにも関わらず、入場者数が目標値を下回った原因は、当日の天候が大きく影響したものと思われる。今回は初の取組みとして「雪の日特典（公演当日に降雪があった場合は、悪天候の中ご来場いただいた皆様へ感謝の気持ちを込めて、専属オルガニストによるロビー演奏をするもの)」を開催し、降雪時の来場者減少対策を講じたが、今後も引き続き新たな方策を模索していきたい。 ②いずれの公演においても観客満足度は高く、目標値を上回った。観客アンケートにおいても、企画内容に対する満足の声や、来年度も同公演への来場を希望する意見が寄せられた。これにより、地域の文化拠点である Kitara の公演が、市民の継続的な楽しみの一つとなっていることがうかがえる。 ③企画専門委員による講評シートでは、これから世界へ羽ばたく若手演奏家の起用、普段聴く機会の少ない作品を取り上げたプログラム、地元オーケストラの精度の高い演奏に対し高い評価を得た。

人材養成事業	
自己評価	①受講生及び聴講生のいずれも目標参加者数を上回ることが出来た。日本全国から参加があり、講師との協議のうえ、当初の想定を上回る受講生を受け入れることとなったが、これにより多くの若手音楽家に対して学びの機会を提供することができた。四半世紀にわたり継続しているリスト音楽院セミナーについては、全国的に認知度が向上してきたものと推察される。 ②③セミナー及び公演のいずれにおいても、入場者数及び満足度の目標値を上回ることが出来た。リスト音楽院と Kitara の長年にわたる連携体制から実現するリスト音楽院教授によるリサイタルや、地元音楽家団体と連携し作り上げるコンサートは、Kitara ならではの公演であり、Kitara の独自性を生かした事業として、一定の成果を上げることができた。 ④企画専門委員による講評シートでは、世界的なアーティストでもあるリスト音楽院セミナー講師らの演奏に対して高い評価が寄せられ、札幌において質の高い演奏を提供できたことが確認された。また、セミナーの重要性を一般の音楽ファンに認識してもらう機会としても講師コンサートが機能しているとの評価があり、講師コンサートは大変意義深い取り組みであることが示された。

普及啓発事業	
自己評価	①入場者数は 6 公演（きがるにオーケストラ、3 歳からのコンサート～ピアノ～、若い芽の音楽会、ハンガリーの俊英たちⅥ、アウトリーチ×2 公演）が目標未達となった。中でも、きがるにオーケストラは入場者数が目標の 83%に留まり、券売が伸び悩んだ。その一因としてテーマ性が伝わりにくかったことが考えられる。当該公演では、プログラムのテーマは、『スポーツと 5～6 月』とし、「天国と地獄」など運動会でおなじみの曲や、ベルリオーズの代表作「幻想交響曲」（第 5 楽章は五月祭の前夜祭が舞台）などを取り上げたが、“気軽に楽しむ入門編のオーケストラコンサート”としての趣旨が十分に伝わりにくく、テーマ性が一目で理解しづらいことから、広報においてもテーマの魅力が直感的に伝わりにくいという課題があった。 ②いずれの公演においても観客満足度は高く、目標値を上回ることが出来た。0 歳や 3 歳からの入場が可能なファミリー層を対象とした公演や、クラシック初心者層を対象とした公演、地元で音楽を専攻する学生に演奏機会を提供し若手演奏家の育成に繋げた公演、世界的なアーティストのトーク付きコンサートを安価で楽しめる公演、専属オルガニスト制度を生かした小学校へのアウトリーチ公演や地元大学との連携講座等、あらゆる対象に合わせた独自の企画で広く市民にクラシック音楽を提供し、一定の成果を上げることができた。 ③企画専門委員による講評シートでは、出演者に地元で音楽を専攻する学生を起用した「普-02 若い芽の音楽会」やリスト音楽院から推薦を受けた若手アーティストを起用した「普-04 〈ハンガリーの俊英たちⅥ〉サバディ・イルディコ フルートリサイタル」について、出演者の演奏技術に対し高い評価を得ることが出来た。これらは、地元音楽大学やリスト音楽院と Kitara の連携体制により質の高い演奏を保ちながらも、若手演奏家に演奏の機会を与えることができており、地域における音楽人材の育成と公演の質の両立において成果が認められた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招へい等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招へい等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①ヨーロッパから招へいするホール専属オルガニスト制度の活用 ②外国人来場者の意見徴収	①他ホールや教会、学校等（道外含む）主催事業以外での専属オルガニストの演奏機会を設ける。（年間８回以上） ②昨年度から開始した英語版アンケートを引き続き各公演で設置し、年間で 20 件以上回収する。（R6 実績：12 件）	①【達成】９回 ・那須野が原ハーモニーホール ・ザ・シンフォニーホール ・北星学園大学 ・札幌北一条教会 ・PMF GALA コンサート ・UNDERTALE コンサート（全３公演） ・札響ユニバーサルコンサート ②【未達成】12 件

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　札幌コンサートホール Kitara

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	①専属オルガニストが主催事業以外の公演に年間 9 回出演し、目標達成となった。才能ある若手専属オルガニストを道内外へ派遣することで、札幌コンサートホールの認知向上に寄与するとともに、国内におけるオルガン音楽の普及にも貢献した。 那須野が原ハーモニーホールでの公演は、第 6 代 Kitara 専属オルガニストのジャン＝フィリップ・メルカールト氏が現・那須野が原ハーモニーホール専属オルガニストを務めている縁により、Kitara への依頼に繋がり、当該ホールでの Kiara 専属オルガニストによる初の公演を実現した。Kitara 歴代専属オルガニストは国内外で幅広く活躍しており、今回の公演は継承されてきた歴代オルガニストのネットワークが、札幌から全国（さらには世界）へと広がっていく好事例となった。また、当該ホールの担当者からは「いつものオルガン公演よりもたくさんの観客が来てくれた」と、Kitara 専属オルガニストの公演に対する注目度の高さを実感することが出来た。 9 月に就任した第 26 代 赤枝サンテソン留果は、3 月に行われた「UNDERTALE コンサート」に参加した。本公演は全国ツアーの一環ながら、当ホールが唯一のオルガン演奏を含む公演として開催され、オルガンを有するホールとして新たな層にその魅力を発信する好機となった。また、ゲームやアニメといったカルチャーは、訪日外国人の関心を集めやすい分野であることが改めて認識され、今後の外国人へのアプローチにおいては、こうした分野との連携も検討していきたい。 ②目標まで 8 件足りず未達成となった。 「さっぽろオータムフェスト」や「札幌雪まつり」等、札幌市の観光が盛んになる時期の公演については、特に外国人の方が多く来館している姿が見受けられるが、アンケートの回収までには至らなかった。今後は、手書きのアンケートのみならず二次元コードを利用した回収方法など、手軽で取り組みやすい方式を検討していく。 （その他） 【国際交流】 ・人-01「リスト音楽院セミナー」 日本にいながら留学への門戸を開く機会として、リスト音楽院ノン・ディグリー・プログラムの入学試験を Kitara で実施し、今年度は 6 名が合格した。 ・普-04「〈ハンガリーの俊英たちⅥ〉サバディ・イルディコ フルートリサイタル」 リスト音楽院から推薦を受けたハンガリーの優秀な若手アーティストを日本に招へいし、リサイタルを開催した。当該公演では札幌市出身で第 22 回リスト音楽院セミナー審査員特別賞受賞者であるピアニスト荒川浩毅を起用し、ハンガリーと札幌の音楽家による活発な交流が行われた。また、Kitara 以外でも、北海道国際音楽交流協会（ハイメス）及び札幌音楽家協議会の会員とのコンサートを実施し、札幌で活動する音楽家との共演の機会を設けた。 【新たな創客への取組】 ・公-01「Kitara のクリスマス」 札幌市に居住する外国人留学生 32 名を公演に無料招待した。 ・人-01「リスト音楽院セミナー（ガーボル・ファルカシュ ピアノリサイタル)」 札幌市に居住する外国人留学生 8 名を公演に無料招待した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	利用者のニーズをふまえた受付対応で利用のハードルを下げ、ホールの稼働率アップに取り組んでいる。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①貸館事業入場者数／施設利用率 ②市民によるホールボランティア在籍数 ③地域密着型連携事業数	①331,000 名／81%以上 ②100 名以上を維持 ③11 事業以上（R6 実績：11 事業）	①【未達成】 貸館事業入場者数：275,772 名 施設利用率；大ホール 84.9% 小ホール 71.4% ②【達成】 102 名（令和 8 年 3 月末時点） ③【達成】12 事業 ・普-01 Kitara あ･ら･かると ・普-02 若い芽の音楽会 ・普-05 学校オルガンアウトリーチ ・普-06 パイプオルガン特別講義＆オルガン体験レッスン ・人-01 特別レクチャー ・専属オルガニストデビューリサイタル ・クリスマスオルガンコンサート ・オルガンウィンターコンサート ・Kitara アーティスト・サポートプログラム ・子どものための参加型音楽会 ・Kitara ファースト・コンサート ・ジャパン・ナショナル・オーケストラ 北海道ツアー2025

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	【文化拠点】 ・長く厳しい冬の季節は外出機会が減少傾向にあるという季節がもたらす環境、またホール会員組織 Kitara Club の退会理由として最も多い「高齢による外出困難」という 2 点が地域の特性やニーズの一部として挙げられる。これらを踏まえ、「公-02 Kitara のニューイヤー」では、ホール専属オルガニストによるオルガン演奏で来場者を出迎えるプレコンサートを実施することで、足が遠のきがちな真冬の公演に対する来場を促すきっかけづくりを行った。また、「公-01 Kitara のクリスマス」では、市の高齢保健福祉部と連携し、会場に足を運ぶことが困難な方が多く入居する 700 以上のシニア向け施設に対し、北海道唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団による演奏を YouTube 上にアーカイブ配信することで、高齢者の入居生活に文化芸術を通して彩を添えることができた。 ・「ジャパン・ナショナル・オーケストラ 北海道ツアー2025（助成対象外事業）」では、道内ではオーケストラ等の大型公演が札幌に集中している現状や、費用面などの理由により地方ホール単独での招へいが困難という地域の特性をとらえ、Kitara の主導により北見市、帯広市、函館市を回る北海道ツアーを実施した。当ホールが拠点となり、人気アーティストによる公演を全道各地へ届け、各地で好評を博した。 【地域連携】 ・「普-01 Kitara あ･ら･かると」は、札幌では気候が良く過ごしやすいゴールデンウィークの時期に開催している音楽祭で、地元の音楽関連団体やホールボランティアスタッフ、地元飲食店等の協力を得て、中島公園一帯のにぎわいを創出したほか、物価高騰等により遠出を控える市民に対して、近場で気軽に楽しむことができるイベントとして提供することができた。 ・文化芸術の担い手、支え手不足が叫ばれている一方で、特に教育分野においては文化芸術との出会いを通じて子どもの感性や創造性を育むことが期待されている。これを踏まえ、「公-03 Kitara のバースデイ」ではクラシック初心者やお子様連れ家族などのライト層から、クラシック音楽やオルガンファンなどのコア層にいたるまで、札幌市が誇る文化資源であるパイプオルガンの魅力を届けることができた。また、「普-07 0 歳からのコンサート」は、幼い頃から本物の音楽に触れる機会を創出し、子どもを連れて安心して出かけることができる場としての認知拡大につながった。 ・「普-06 パイプオルガン特別講義＆オルガン体験レッスン」では、地元音楽大学と連携し、ホール専属オルガニストを講師としてパイプオルガンについて学ぶ機会を授業の一環として提供した。また、本講義は平成 30 年度以降、有料の一般聴講枠も設け、市民にも開かれた講義として実施しており、令和 6 年度及び令和 7 年度には、2 年連続で一般聴講席 80 名分が完売となった。これは、当ホールにおけるオルガンコンサートや講義等を通じたオルガン普及活動の成果が現れ、市民のオルガンに対する関心が高まってきたものと考えられる。こうした状況を踏まえ、令和 8 年度は同講義の一般聴講枠を拡大し、オルガンのさらなる普及と発展に努めたい。また、「人-01 特別レクチャー」では、当ホールが開館当初より連携しているハンガリーのリスト音楽院から講師を迎え、世界的音楽教育機関で教鞭をとる教授によるレクチャーを大学との連携事業として実施した。いずれも、大学単独では実現が困難ではあるが、当ホールとの連携により、カリキュラムに多角的な学びを提供することができた。 【児童生徒への機会提供】 ・子どもたちへの文化芸術に触れる機会の提供を推し進めるため、札幌市では小学校へのアウトリーチ事業を継続しており、「普-05 学校オルガンアウトリーチ」では市内小学校へ小型オルガンを持ち運び、専属オルガニストによるコンサートを実施した。学校の授業では体験することができない生の音楽を通して、自分たちが住む街にあるコンサートホールやパイプオルガンについて学ぶ機会とした。 ・「普-01 Kitara あ･ら･かると」では、市内の中学校および高校の吹奏楽部との連携により、音楽を学ぶ生徒に参加機会を提供することができた。 ・「Kitara ファースト・コンサート（助成対象外事業）」では、札幌市内全小学 6 年生に加え、さっぽろ連携中枢都市圏の小学 6 年生を無料招待し、パイプオルガンとオーケストラによる演奏の鑑賞機会を提供している。令和 7 年度には参加児童数が 30 万人を超え、当該事業に参加した際に耳にしたパイプオルガンの音色を大人になってから思い出し、オルガンコンサートを聴きに来たという来場者がおり、継続的な取り組みの成果が現れ始めた。 ・「子どものための Kitara 参加型音楽会（助成対象外事業）」では、市内小学校に通う障がいのある児童を広く受け入れ、コンサートホールでの本格的な音楽鑑賞体験を提供することで障がい者の芸術活動への参加推進を図ることができた。

	【ホール利用サービス（貸館事業）の向上】 貸館事業入場者数は目標値には及ばなかったものの、前年度比約 2.4%増となり、コロナ禍以降で最多の入場者数を記録するとともに、コロナ禍以前の水準に近づきつつある。これにより、貸館事業を通して多くの方に当ホールへ来館いただくことができた。また、施設利用率は目標値に対し大ホールは達成した一方で、小ホールは未達成となった。 利用者により便利で快適に施設をご利用いただくことを目的として、当ホールを含む財団管理の 4 館で共通で利用できる施設予約システム“ぽろカル LiNK”を 2025 年 11 月より運用開始した。本システムの導入により、複数の施設の空き状況を一括で検索できるようになった。インターネット予約の普及により利用者は効率的に空き施設を見つけることが可能となり、利用者へのサービス向上、施設利用率の向上にも繋がるものと考えられる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	（情報入手のしやすさ）ウェブアクセシビリティに配慮したホームページで、誰もが情報を入手しやすい環境づくりが行われている。

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①若者層の利用者数(U25 チケット販売数) ②子育て世代に向けた事業数 ③ホームページのアクセス数 ④アプリ会員数	①1,385 枚以上（要望書内の記入数値から算出） ②年間 3 事業以上（R6 実績：3 事業） ③ホームページのアクセス数が前年度の 5%増（外国語ページ含む）（R6 実績：887,568 件） ④アプリ会員数が前年度の 1.2 倍増／13,900 名（R6 実績：11,581 名）	①【達成】1,488 枚（U18、小中学生チケット含む） ②【達成】3 事業 ・公-03 Kitara のバースデイ～まずはここから公演～ ・普-01 3 歳からのコンサート ・普-07 0 歳からのコンサート ③【未達成】 ホームページアクセス数 927,187 件 →4.5%増（R6 年度比） ④【未達成】 13,724 名（令和 8 年 3 月末時点）

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	①本格的なオーケストラ公演である「公-01 Kitara のクリスマス」では U25 目標値を上回り、高校生ヴァイオリニストをゲストに迎えた演奏で若い世代にも音楽に親しみを持ってもらうことができた。また、「普-01 Kitara あ･ら･かると　3 歳からのコンサート」では全 3 公演で目標を達成したほか、「普-03 Kitara アフタヌーンコンサートシリーズ」では「朴 葵姫ギターリサイタル」で目標を達成となり、若者にも人気の高いアーティストの起用が奏功したと考えられる。全体として目標値を達成したものの、公演ごとに若年層の購入率に差が見られることから、年間を通して若者層の安定的な取り込みが課題であることを再認識した。今後も企画内容に工夫を重ねながら U25 制度を継続し、さらなる利用者数の増加に努めたい。 ②「公-03 Kitara のバースデイ～まずはここから公演～」は 0 歳から入場可能とし、おむつ替えスペースやベビーカー置き場、授乳スペースを充実させ、子どもを連れて安心して来場できる公演を実施することができた。「普-01　Kitara あ･ら･かると」では「3 歳からのコンサート」など、未就学児から入場可能な公演を実施するほか、ロビーで無料コンサートや楽器作り体験など各種イベントを実施し、子育て世代を含めたあらゆる人々が気軽に来館して楽しめる事業を実施することができた。 「普-07　0 歳からのコンサート」では、「公-03」と同様におむつ替えスペース等の設置のほか、本編前のプレコンサートとして「公-03」の PR を行い、子育て世代へ公演情報を提供することができた。 ③ホームページのアクセス数は前年度比 4.5%の増加となった。ホームページ内「バリアフリー/サービス」ページの内容を充実させ、車椅子スペース、託児サービス、多目的化粧室、場内の段差など、写真を掲載してアクセシビリティ向上に努めた。 ④アプリ会員数は大きく伸びることはなかったものの、会員数をほぼ維持している。人気が予想される公演のチケット発売のタイミングに合わせてアプリがインストールされる傾向にあるため、チケット先行発売などアプリ会員の特典を継続して実施していく。アプリ内ではチケット発売日のほか、年間公演ラインナップ情報のページ閲覧数が多い。引き続きアプリ内での情報発信を行い、アクセシビリティの向上に努めていく。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
・「人-01 リスト音楽院セミナー」はホール開館以来、四半世紀にわたり実施している事業であり、これまでの参加者は延べ 1,100 名を超えた。参加者の活躍は目覚ましく、過去 2 回セミナーに参加し、第 22 回リスト音楽院セミナー（2019 年開催）では、審査員特別賞を受賞した札幌市出身の荒川浩毅氏は 2024 年開催の「第 93 回日本音楽コンクール ピアノ部門」にて 2 位入賞を果たした。国内最高峰とされるコンクールでの 2 位入賞は地元でも大きな話題となり、Kitara 主催事業「普-04〈ハンガリーの俊英たちVI〉サバディ・イルディコ フルートリサイタル」にて荒川氏を起用するに至った。同公演の講評シートやアンケートでは、荒川氏の演奏に対する高い評価が多く寄せられ、セミナーからさらに研鑽を積んだ演奏家の魅力を広く市民に紹介する機会となった。本事例は、地元音楽家の成長過程に対し、セミナー開催から主催公演への起用まで一貫して関わることが出来た好事例であった。 　また、「人-01 第 28 回リスト音楽院セミナー」ではチェロコースの公式伴奏者としても荒川氏を起用した。伴奏においても、講師からも高い評価を得ており、伴奏者としてセミナー全体の底上げに寄与し、重要な役割を果たした。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	文化庁助成金の他、札幌市からの補助金及びスポンサーからの協賛金の獲得に努めている。	地下鉄ステッカーや地元ラジオ番組等、様々な媒体を利用した年間広報を計画的に実施している。友の会では特典を設け、会員の維持増加に努めている。
目標(値)（※2）	スポンサー制度を周知し、より多くの協賛金獲得に努める。	
実績(値)	R7 年度スポンサー（実績） 【ホールスポンサー】 ・ゴールドスポンサー（協賛金 100 万円）：5 社 ・シルバースポンサー（協賛金 50 万円）：3 社 ・事業スポンサー（協賛金 10～30 万）：3 社	
団体の自己評価	新規ゴールドスポンサー1 社、シルバースポンサーからのグレードアップ 2 社と、前年度を上回る支援を獲得できた。R6 年度から導入したゴールドスポンサー特典「オルガン公演への冠付与」の新設がスポンサーにとっての魅力向上につながり、支援拡大に寄与したと評価できる。今後も特典の充実と関係強化を図り、安定的なスポンサー確保に努めていく。	様々な媒体を利用した効果的な広報を実施した。Kitara Club（友の会）会員数は現状維持となり、アプリ会員数は前年度比で約 2,000 名増加した。今後は、気軽に無料で登録できるアプリの特性を活かして若年層を中心としたライト層の獲得を進めるとともに、Kitara Club 会員の特典に対する認知を高め、会員基盤の強化に繋げていく。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	道内ホール 4 館の連携による北海道ツアーの実現や、連携館 6 館をはじめとした全国のホールとの情報交換等、効果的かつ効率的な運営に努めている。	毎年、年 4 回の施設運営協議会及び年 2 回札幌市の施策を反映した施設運営を行うために政策推進連絡会を実施し、市民サービス向上に対する相互的な意見交流を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	Kitara 発案で道内各地（北見市、帯広市、函館市）のホールに呼びかけ、北海道出身のピアニスト 反田 恭平率いる「ジャパン・ナショナル・オーケストラ 北海道ツアー2025（助成対象外事業）」を開催した。Kitara が道内の統率を図り、事務所との交渉を一手に担うことで日本トップクラスのオーケストラによる道内ツアーを実現させ、各地へその演奏を届けた。	施設運営協議会（年 4 回）、政策推進連絡会（年 2 回）を実施し、情報交換を行い市民サービス向上に対して意思疎通を図ることができた。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈（オ）～（セ）〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術監督の配置はない。	札幌市の出資団体として、人的サポートを含め長期的に安定した運営を実施している。
目標(値)（※2）	ホール外部有識者によって構成される企画専門委員会や事業実行委員会、施設運営協議会等による評価や助言を受け、引き続き高い水準の音楽事業の実施に努める。	
実績(値)	・企画専門委員会（年 2 回） ・リスト音楽院セミナー実行委員会（年 2 回） ・施設運営協議会（年 4 回）	
団体の自己評価	外部有識者から定期的に評価や助言を受け事業の見直しを図るなど、事業全体の質の向上に努めている。	施設の運営に見識がある札幌市の OB・OG を配置し、長期的に安定した運営を図っている。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	動画によるクラシック研修の実施や、外部研修への参加により、職員の音楽知識の向上に努めている。	職務内容と個人の能力、専門性、適性を考慮した職員配置としている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	職員の音楽及び施設に関する知識の向上を目的として、動画によるクラシック音楽やオルガン音楽の研修の他、ホール設置の背景についてホールの建築設計担当者による講義を実施した。また、地域創造が主催するステージラボに職員を派遣し、専門人材の育成に努めた。	職員の適性を考慮した配置を行ったことで、高い水準の音楽事業の実施と業務の効率化を両立し、係全体の残業時間削減にも繋がった。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	正社員採用にあたり 35 歳未満の採用枠を設け、若年層の雇用に努めている。	Kitara では女性管理職比率が 67%である。
目標(値)（※2）		財団全体では女性職員の割合が多く、また、管理職への起用・評価において男女差がないため、近い将来自然に改善される見込み。
実績(値)		上記同様。
団体の自己評価	職員は 20 代～60 代までの幅広い年齢で構成されており、世代間バランスがとれている。	Kitara では支配人を含む女性管理職比率が 67%、係長職を含めても 57%となっており、女性のリーダー職への登用が着実に進んでいる。 （財団全体では女性管理職比率が 28%）

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	「育児・介護休業等に関する労使協定」が整備されており、両立支援を行っている。	情報セキュリティ基本規程を見直すとともに、研修に関する年間計画を立て、コンプライアンスや情報セキュリティ等の研修を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	令和７年度、財団全体では育児休業４名、介護休業１名の取得があった。	
団体の自己評価	育児・介護休業法に基づき、財団内で育児・介護等の支援制度を整備・推進しており、誰もが働きやすい環境が整えられている。	個人情報の適正な管理を強化するため、個人情報保護要綱を全て改正した。また、情報セキュリティポリシー研修、コンプライアンス研修を実施し職員の理解を深めた。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	研修に関する年間計画を立て、ハラスメント等防止のための研修を行っている。	適正な流れ・様式で各事業の契約事務を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	財団として「就業規則に基づく職場におけるハラスメントの防止等に関する方針」を策定し、職員が十分な勤務能率を発揮できる良好な勤務環境の形成に努めている。	全ての主催事業において財団の規定に基づく方法・様式で契約事務を遂行した。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価

札幌コンサートホールでは、ミッションやビジョンをふまえて計画通りに事業を展開し、設定した目標を概ね達成することができた。

公演事業　音楽専用ホールの特性を最大限に活用し、市民のニーズをふまえた芸術性の高い公演を実施することができた。地元出身の指揮者や専属オルガニスト、期待の若手アーティスト、そして一線で活躍するソリスト陣を起用した Kitara オリジナルのプログラムを展開しており、その独創的な構成が支持され、市民に定着している。

【公-01 Kitara のクリスマス】新たな試みとして、シニア層向け施設への演奏動画配信を行った。かつて Kitara のファンであった高齢者層に対し、施設に居ながらにしてクラシック鑑賞をできる機会を提供することで、音楽を通じた生きがいの創出を図ることができた。

【公-02 Kitara のニューイヤー】雪国札幌の気候条件を逆手に取った試みとして、降雪時の来館意欲向上を目指した「雪の日特典」のオルガンプレコンサートを実施した。当日は、専属オルガニストによる演奏がロビーを包み、会場は大勢の観客に囲まれる一体感のある温かなステージとなった。悪条件を来場者の喜びへと繋げたこの施策は、公共ホールの在り方として一つの成功モデルになったと言える。

【公-03 Kitara のバースデイ】 シンボルのパイプオルガン公演を、0 歳から入場可能なファミリー向けと、大人・オルガンファン向けの二部構成で実施した。家族連れから高齢者まで幅広い層がクラシック音楽に触れる機会を創出し、新たなオルガンファンの獲得に努めた結果、毎年オルガン公演の来場者が増加している。

人材養成事業　「国際的な教育機関との連携」と「地域に根ざした音楽家支援」の両輪により、次代を担う才能の育成と地域文化の質的向上において多大な成果を収めた。

【人-01 第 28 回リスト音楽院セミナー】専門的な教育環境が首都圏に集中してしまう中、北海道において、世界トップレベルの指導を継続的に提供することで、延べ 1,100 名を超える受講生を輩出するとともに、国内唯一となる同音楽院の入学試験会場としての役割を担うなど、日本とハンガリーを繋ぐ強固な教育・交流拠点を確立した。

【人-02 〈Kitara＆札幌音楽家協議会連携プロジェクト〉札幌の音彩Ⅲ～春をつげる北のアーティストたち～】札幌市出身の指揮者・横山奏を招へいし、その卓越した指導力を地元演奏家へ還元することで、個々の技術向上のみならず、札幌の音楽界全体のさらなる底上げを図ることができた。また、本公演は「音彩シリーズ」として 3 か年計画で実施しており、令和 7 年度はその最終年度にあたることから、これまで以上に編成の大きな室内楽や語り付き作品、2 台ピアノ曲といった大作に取り組み、シリーズの集大成に相応しい内容となった。これにより、地元フリーランスの演奏家にとって貴重な合同演奏の機会を創出するとともに、出演者の技術向上においても極めて意義深い成果を得ることができた。

普及啓発事業　音楽の力で子どもや青少年の感性を育むエデュケーションプログラムを実施した。札幌交響楽団、専属オルガニスト、地元演奏家との協力により、市民が気軽に楽しめる事業を実施し音楽の普及を図ることができた。

【普-01 Kitara あ・ら・かると】全館開放と地域連携を軸に、10,712 名の来場者を記録し、地域の文化拠点として確固たる存在感を示した。小型オルガン体験や地元アーティスト、中高生を起用した公演が好評を博したほか、子ども向けの体験企画やマルシェの展開により、幅広い層が親しめる憩いの場を創出した。

【普-02 若い芽の音楽会】演奏に加え、大学教授のインタビューを通じて発信力を養う工夫が凝らされ、アーティストの成長を促す有意義な機会となった。また、SNS 活用やフィードバック企画など、市民が継続的に支援したくなる多角的な仕組みづくりも高く評価される。

【普-03 Kitara アフタヌーンコンサートシリーズ】土日祝日の昼間にトーク付きの親しみやすい公演を開催することで、平日夜間の外出が困難な層を含む幅広い市民へ、安価で良質な鑑賞機会を提供した。その結果、全 3 公演のうち 2 公演が完売するなど、高い満足度とともに優れた集客実績を収めることができた。また、「〈Kitara アフタヌーンコンサート〉浜松市・札幌市 音楽文化都市交流事業 第 12 回浜松国際ピアノコンクール優勝・札幌市長賞受賞者 鈴木 愛美 ピアノリサイタル」は、札幌市と浜松市の音楽文化都市交流宣言を促進する事業として、行政間交流に寄与した。

【普-04 〈ハンガリーの俊英たちⅥ〉サバディ・イルディコ フルートリサイタル】リスト音楽院で学ぶフルート奏者イルディコ氏を招き、本場ハンガリーの作品を深く掘り下げたプログラムを披露した。共演者には、過去のセミナー審査員特別賞で札幌市出身のピアニスト荒川浩毅氏を起用し、若手アーティスト同士の国際交流を形にすることができた。円安や物価高騰が国際交流の影を落とすなか、ホール独自のネットワークを駆使して世界水準の演奏を届けた意義は大きく、来場者からも両氏の共演に対し極めて高い評価を得た。

【普-05 学校オルガンアウトリーチ】専属オルガニストによる本格的な演奏に加え、クイズや即興演奏、リコーダーとの共演といった参加型プログラムを展開した。学校という日常の場で非日常的な芸術体験を提供することで、子どもたちの豊かな感性を育むとともに、次世代の聴衆育成に大きく寄与した。

【普-06 パイプオルガン特別講義＆オルガン体験レッスン】専属オルガニストを講師として、パイプオルガンの歴史や構造についてデモンストレーション演奏を交えながら講義を行い、地元音楽大学の学生に対し授業の一環として学びの機会を提供した。体験レッスンでは、若年層から市民オルガニストまで多様な層が受講し、座学で得た興味を実践へと繋げ、受講生の理解と満足度を高めた。
【普-07 0 歳からのコンサート】授乳室の完備や「泣いても大丈夫」と感じられる温かな雰囲気づくりを通して、小さな子どもを連れた外出への不安を和らげ、次世代の感性を育むと同時に、子育て世代が気兼ねなく文化に触れられる事業となった。また、アンコール時の写真撮影を許可し、来場者の思い出作りと SNS による劇場の魅力発信を同時に実現した。

総評

当財団では札幌市の文化芸術振興を図り、的確で効率的な運営を行うため、令和 5 年度から令和 9 年度までの中期経営計画を策定し、6 つの重点取組項目を設定。これらの項目に沿った事業の展開を実施している。

それらを踏まえた令和 7 年度の取り組みにより、当ホールは地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮し、地域における芸術文化の振興に大きく貢献することができた。これらの成果は、文化庁からの助成金を活用するに十分値するものであり、事業目的の達成に大きく寄与したと評価できる。

今後も、道内唯一のクラシック専用ホールとして、道民が求める世界水準の公演を積極的に招へいするとともに、道内各ホールへの情報提供や広報連携を一層推進し、道内の方々に札幌へ足を運んでいただけるような魅力ある公演づくりにも取り組んでいく。加えて、地元プロオーケストラ公演を当ホール主催事業ならではの魅力あるオリジナル企画で引き続き実施し、若者層の来館者数の増加に努めていく。さらに、誰もが気軽に音楽と出会い、楽しむことができる“開かれたホール”を目指し、幅広い層が音楽に触れる機会を創出する取り組みも継続していく。

また、当ホールがこれまで培ってきた海外機関との信頼関係を基盤に、国際的な連携による事業を継続し、地元若手演奏家の育成のみならず、世界と繋がる地域の音楽文化のさらなる発展を図っていく。さらに、地元音楽家団体や地元音楽大学と連携した事業を展開し、地域における音楽に携わる人材の育成を進めるとともに、札幌の音楽界全体のレベル向上へと繋げていく。

これからも当ホール発信の音楽事業を通じて、公共ホールとしての社会的使命を果たし、多様な人々が音楽と出会い、親しむことができる環境の充実を図りながら、音楽を通じて心豊かに暮らせる地域づくりに努めていく。

備考